

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷二十二第

行發日一月六年五十正大

論叢

資本利子税の缺點……………法學博士 神戸正雄

海運同盟の排他的手
段に對する北米合衆國の政策 授 小島昌太郎

岡山藩の税制……………授 黒正巖

新經濟政策ごロシア勞働立法……………授 末川博

チャアルス・ホールの政策論……………授 堀經夫

時論

英國の總同盟罷業……………法學博士 河田嗣郎

說苑

長野縣下に於ける地割の慣行……………經濟學博士 本庄榮治郎

雜錄

世事蘆體觀……………法學博士 財部靜治

獨逸に於ける宗教統計……………經濟學士 中川與之助

法令

營業收益税法・資本利子税法・相續税法中改正

附錄

本誌第二十二卷總目錄

(裝 轉 載)

獨逸に於ける宗教統計

中川與之助

Wirtschaft und Statistik 13. März 1926 を觀ると、一九二五年六月十六日に行はれた獨逸の國勢調査に據る宗教統計が掲載されてある。内容は簡單であるが、戦前戦後に於ける獨逸の社會狀態を反映する數字として教へらるゝ所が少くない。その大要を紹介すれば次の如くであらう。

一

一九二五年六月十六日に行はれた人口職業產

業調査を完成するには、莫大なる調査資料——約一千五百四十萬の世帯表、五百萬の農業並に山林經濟表、三百二十萬の企業表——を精査訂正補充し、その上、個別報告事項に一定の集團特徴(象徴)を與へねばならぬから、多大の勞力と時間とを要するは言ふまでもない。夫で整理過程としては、先づ第一に行政並に經濟に特に重要な職業調査と農業工業等の企業調査の結果を、恐らく今年の夏と秋までに完成し、夫か

ら人口調査に就ての詳細なる報告の完成に及ぶ順序である。併し速報は已に或地方の統計局から發表せられ尙續々公けにせられる筈になつてゐる。本報告の完成せざる今日に於ては、暫くその速報によつて住民の宗教所屬別を調べねばならぬ。

バイエルン・ウエルテンベルヒ・ヘッセン並にシャウムブルヒリッッペに於ける人民の宗教別を表示すると次の如くである。

宗 教 別	人 數		百 分 比		總 數	增(或)減(一)	百 分 比
	一九二五	一九一〇	一九二五	一九一〇			
新 教	二、二、八六	一、九、二八五	三六・六	六三・三	一、六、五〇	八・四	三・〇
舊 教	五、一、三、三三	四、八、三、三三	七〇・〇	七〇・六	三、〇、九、一	六・三	七・七
猶 太	四、一、一四	五、〇、〇五	〇・四	〇・八	五、九、〇(一)	一〇・八(一)	一〇・八
そ の 他	五、三、三九	七、〇、〇六	〇・七	〇・四	七、七、三(一)	一〇〇・三	一〇〇・三
合 計	七、七、九、五四	六、八、七、元二	一〇〇・〇	一〇〇・〇	四、九、七、〇一	四・一	四・一
新 教	一、七、三、七九	一、三、一、八五	六六・八	六五・五	五、〇、六四	三・〇	三・〇
舊 教	五、六、五、九	五、九、九、五	三〇・九	三〇・四	五、七、〇(一)	七・七	七・七
猶 太	一〇、〇、七	一、一、九三	〇・四	〇・五	一、一、五(一)	九・七(一)	九・七(一)
合 計	ガエルテンベルヒ						

その他	合計	新 教	舊 教	猶 太	其他 〔他のキリスト教 残餘〕	合計	新 教	舊 教	猶 太	其他 〔他のキリスト教 残餘〕
50,141	1,541,415	84,360	456,645	10,101	17,635	1,126,315	488,004	577,341	14,070	5,900
1,541,415	3,447,749	488,004	2,960,745	14,070	5,900	1,266,051	708,884	557,579	14,070	9,402
1.4	100.0	59.8	193.5	1.5	0.4	100.0	96.8	53.2	1.5	0.7
0.6	100.0	61.1	187.0	1.9	0.5	100.0	61.1	187.0	1.9	0.5
35,876	1,418,919	37,566	451,356	18,351	19,809	1,248,151	567,566	483,791	24,811	25,234
1,418,919	3,317,814	567,566	2,750,248	24,811	9,209	1,346,775	712,382	608,603	24,811	79,371
1.4	100.0	59.8	193.5	1.5	0.4	100.0	96.8	53.2	1.5	0.7
0.6	100.0	61.1	187.0	1.9	0.5	100.0	61.1	187.0	1.9	0.5
35,876	1,418,919	567,566	2,750,248	24,811	9,209	1,346,775	712,382	608,603	24,811	79,371
1,418,919	3,317,814	712,382	2,605,432	24,811	9,209	1,418,919	712,382	608,603	24,811	79,371
1.4	100.0	61.1	187.0	1.9	0.5	100.0	96.8	53.2	1.5	0.7
0.6	100.0	61.1	187.0	1.9	0.5	100.0	61.1	187.0	1.9	0.5

二

宗教團體に於ける團體員の増減を來す最も重要な原因は人口の自然的變動(出生數と死亡數並にそれに伴ふ出生數又は死亡數の超過)であり、次は移住來住による變動、次は信仰の放棄又は他宗への改宗等である。

一九二〇年以來増加した人口に就て觀るに、依然、舊教と新教に屬する者が最も多い。右の表の示す如く、バイエルンでは總人口の百分の九八・八、ヴュルテンベルヒでは九七・七、ヘッセンでは九六・六である。之に對して一九一〇年は九八・八、九八・九、九七・一であつた。之

を各派別に比較すれば、バイエルンでは新教、ヴュルテンベルヒでは舊教がその率を増してゐる。而るにヘッセンでは新舊二派共僅か宛減少してゐる。猶太教は著しく減少した。即ち、バイエルンでは總人口の約百分の一〇・八、ヴュルテンベルヒでは九・六、ヘッセンでは一五・二だけ減じた。この減少が如何なる程度に於て、キリスト教への改宗によるか、又、人口増加率の關係(猶太人は特に出生率低し)によるか、又特に他地方への轉住或は外國への移住によれるかは、不完全なる資料では之を判斷し難い。

次に、到る處に於て所謂その「他の信仰」が増加した。併し數字をみると夫程重要ではなく、最も多くてヴュルテンベルヒの總人口に對する百分の一・九である。この「他の信仰」の増加傾向を知るの鍵を與へるものは、ヘッセンの數字である。今それによつてその組成をみるに、ヘッセンでは一九一〇年に比して一九二五年は、「他の信仰」が總人口の百分の〇・九だけ増加してゐるが、その増加分の九分の一は、「他のキリス

ト教」九分の八は、「非キリスト教團體」及び *Wissenschaftsgemeinschaft* に屬する、この九分の八の大部分は無宗教と自由宗教である。その數、一九一〇年に五千六百四十五人であつたが、一九二五年には一萬六千五百五十七人になつた。

三

以上は獨逸の二三州に就ての宗教狀態であつて、勿論之を以て獨逸全般に亘る斷案を下し難いが、試みに上に述べたる所を要括すれば次の如くである。(イ)舊教と新教とは依然大なる勢力を有しつゝあること。(ロ)猶太教徒の著しく減少したること。(ハ)舊教、新教、猶太教以外の「他の信仰」の増加せること等であるが、就中、無宗教、自由宗教に屬する者の次第に増加しつゝあるは注意すべき現象であらう。世界大戰が獨逸の經濟並に政治に大なる變動を與へたる事は言ふまでもないが、戰前戰後に於て、宗教上にかくの如き變動を生じたることも、何等かの程度に於て大戰に原因することは察するに難くないであらう。